

【学校経営ビジョン】子どもに「今日も学校に来てよかった!」と感じさせる学校・学級経営～よき伝統の継承・学校内共通の壁の確立・子どもの後ろに保護者を感じる風土の醸成・ATM Mindの尊重					
重点目標	評価項目	自己評価コメント	総合評価	改善及び対策	学校関係者評価コメント
1 生徒指導の3機能を生かした学級経営及び専科指導の充実と児童一人一人が自分の成長を感じる教育活動の充実(児童の居場所づくり)	1 生徒指導の3機能を生かした学級経営を行い、児童の自己肯定感を高めたり、可能性を引き出したりする「褒めて伸ばす教育」を推進している。	○職3、3P、児3、5P、保3、1Pで全体の8割である3、2Pを超え、期待どりの評価となった。 ○生徒指導の3機能(自己決定の場を与える、自己存在を感じる、共感的な人間関係を育成する)を生かした学級経営を全学級で実施。 ○褒めて伸ばす教育を意識した学級経営を全学級で実施。	3.3	○今後も全ての教育活動において生徒指導の3機能を生かしたり、褒めて伸ばす教育を意識した学級経営を日常的に行ったりすることで児童の自己肯定感を高めたり、可能性を引き出したりしていく。 ○子どもの自己肯定感、家庭背景などを知るためにたくさん話を聞き、その子の子に気づかせていく。	○全職員が共通理解で全体の児童の風通しもよくなっている。引き続き児童に寄り添った教育を心がけてほしい。 ○子供達によさや家庭背景を知るためにたくさん話を聞くことは、素晴らしい取組だと思いた。結果が楽しみです。 ○児童の自己肯定感が高まることを望んでいます。 ○一人一人が認められ自信をもって生活できていると実感できることを願っています。 ○子どもの笑顔を確認しています。 ○「褒めて伸ばす教育」をするためには子供と接し、小さな変化に気づくといふ職員全体の共働き、目配りも大切であり、上小では実行されていると思う。今後は、保護者や地域の方々にも浸透することを願いたい。 ○児童の自己評価が高く大変よい。保護者の評価が低いのは、情報(学校の様子)が伝わっていないのでは？ ○褒めて伸ばす教育は、大変よいことだと思う。
	2 児童の実態に応じたお互いの良さ認め合い、助け合い、相手を思いやる道徳教育の充実に努めている。	○職3、3P、児3、6P、保3、4Pで全体の8割5分の評価となり、期待どりの評価となった。 ○道徳の評価を要し、体験学習の充実や多様な価値観に触れる機会の提供、家庭・地域社会との連携など道徳教育の充実を回った。	3.4	○考え、議論する道徳の授業になるようさらに授業改善を回っていく。 ○道徳の言語環境もとても大切である。教師の言語環境も意識して整えていく。 ○今後も児童の道徳性を高めるために体験学習の充実や多様な価値観に触れる機会の提供、家庭・地域社会との連携に取り組んでいく。	○何を教えるのか、よりも何を考えさせるのか道徳の時間に丁寧な指導を行ってほしい。 ○考え議論する道徳の授業に子供達がどのような反応があるのか期待します。 ○子ども達の、多様な価値観に触れる事は大事であり、もって地域の行事等に参加させてほしい。 ○体験学習の充実！ ○保護者の評価が高いのよいというのでは、
	3 学級活動の時間や避難訓練、保健指導等により自他者の命の大切さに気づき、自分の命をしっかりと守れる教育を推進している。	○職3、5P、児3、7P、保3、4Pで全体の8割5分の期待どりの評価となった。 ○自分や他者の生命を尊重し、日常生活を安全に過ごすために必要な知識を理解させ、進んで規則を守り、安全に行動できる能力や態度の育成を回った。 ○児童が自分についても同じように振り返りを行った。	3.5	○避難訓練等の行事を行うと共に、危険予知能力を高める常時指導を行っていく。 ○安全教育に関する授業や訓練の実施後も、継続して確認する。 ○児童の安全を第一に考え、定期的な安全点検、修繕を行っていく。	○防犯パトロール等、地域と連携して登下校時の安全な歩行や自転車等の安全利用について指導を徹底してほしい。 ○地域等で行われる防災訓練などの参観を学校側でも呼びかけるのはどうでしょうか。 ○常時指導の大切さを認識して評価しました。 ○地域の、家庭や学校から離れている場合に、どのような場所が危険なのか保護者へも知らせる必要はないのか。車ではなく、徒歩での引き渡し訓練の必要性もある。 ○危険予知能力を身に付けられるように今後も訓練等の行事は常時行っていく。 ○引き続き継続を命も大切な事。
	4 学級目標や個人で設定した学期目標の達成状況を振り返り、児童がよりよい成長を願う学級活動の実践に努めている。	○職3、2P、児3、2P、保3、0Pで全体の8割である3、2Pとなりほぼ期待どりの評価であった。 ○各クラス4月当初に学級目標を設定し、学期ごとにアンケート等振り返りを行った。 ○個人目標についても同じように振り返りを行った。	3.2	○年度初めや学期初めに児童の意見を取り入れた学級目標の設定や個人目標の設定を行い、定期的に振り返りを行うことで自分の成長を実感できる学級活動の充実が必要である。 ○必ず目標の達成状況を振り返る時間を学級活動等で設定していく。	○児童がよりよい成長を願う学級活動とあるが、どのような成長であるか具体的に示してほしい。 ○個人目標の振り返りを再認識しています。 ○目標を決め、目標に向かって切実な努力をする姿が大事であり、児童の成長へもつながる。また、振り返りの時間も大切にしていきたい。 ○児童の自己評価が上がるように努めてもらいたい。 ○児童の自主性すごい。
	5 自分の成長を振り返る「キャリアパスポート(おひるく)」の活用によるキャリア教育の充実を回っている。	○職2、6P、児3、3P、保3、1Pでほぼ期待どりの評価となった。 ○1学期末にしかキャリア・パスポートを活用していない。 ○職員のキャリア・パスポート(おひるく)の活用研修やキャリア教育の職員研修が必要である。	3	○年度初めや夏季休業中にキャリア・パスポートの研修や説明を行い、使い方を、活用の仕方を十分理解して進めていく必要がある。 ○ICT支援員によるキャリア・パスポート(おひるく)記入方法についての研修をお願いする。	○もっとキャリア・パスポートを活用すべきである。簡単に活用する方法を考えた。 ○職員の評価が低いのが気になる。
	6 全教育活動において自分の考えをアウトプットできる場の設定と教師による適切な評価により自分の成長を感じる教育活動に取り組んでいる。	○職3、1P、児2、7P、保2、8Pでほぼ期待どりの評価となった。 ○児童と保護者の「積極的に発表している」のポイントが低い。 ○児童が自分の考えを積極的に発表するような手立てが必要である。	2.9	○お互いの考え方を認め合う学級経営を行っていく必要がある。 ○今後も授業で全員発表の場を定期的に取り入れていく。 ○授業研究会を通して、よりよい授業、子どもが主役の授業づくりについて研究を深める。	○保護者の評価は参観日の評価なのでどうだろうか？ ○子どもが主役の授業づくりを評価してほしい。 ○アプ(ア)等の活用等児童の口頭での発表の場が減ったのではないかと全学級の場を定期的に取り入れていくべきである。 ○児童、保護者ともに低いのは残念である。積極的に発表できる環境づくりを。 ○発表がいかげんのか。
2 授業力向上と学力向上(児童主体の授業づくり)	1 年間授業時数の1割以上「子どもたちが主役の授業づくり(わさびの授業)」を実践している。	○職3、1P、児3、1P、保3、0Pでほぼ期待どりの評価となった。 ○子どもが主役の授業のために教師が脇役徹し、児童の調子等の授業の先を読み、児童の微細な変化に気づく授業改善を行ってきた。	3.1	○教材研究をしっかりと行っていく、引き続き、子どもが主役の授業づくり(わさびの授業)の研修を行っていく。 ○本年度の研修の成果と課題を整理し、来年度の研修に生かしていく。	○わさびの授業の実践や研修・授業改善を評価 ○子ども自身が考える時間を十分に与えて、発表させ、子ども全員が主役の授業を期待したい。 ○子どもが主役は、大変いいですね。
	2 児童がタブレット等のICT機器の活用を、学習方法等を選択するなど、主体的に学習に取り組もうとする意識の醸成に努めている。	○職3、2P、児3、7P、保3、5Pで全体の8割5分以上となり期待どりの評価となった。 ○ジャムボード(ホワイトボードアプリ)からフィジカル(多彩な機能のあるホワイトボードアプリ)への切り変わりによる職員研修を実施した。	3.5	○単元を通して、ICTの活用が効果的な場面を教材研究で考えておく必要がある。 ○今後もICT担当、研究主任、管理職等を中心として、活用しやすい校内のICTシステム作りを行っていく。 ○教職員のICT活用能力に関する研修が必要である。	○ICT機器の活用も効果的に8割以上が期待どりの評価を得ていることはすばらしい。今後も期待したい。 ○日々の宿題は、もちろんのこと、ゲーム感覚でできる学習内容は、よい影響があると感じる。意欲的に取り組む児童が多い。文字の乱れをタブレットは認知してくれるため宿題の時間は、より大切にしているのではないかと思う。 ○授業によってはタブレット等を使う方が理解できることもある。適正な活用をしてほしい。 ○児童の自己評価が高いのはよいことである。 ○タブレットやICTは全学年から活用するべきである。
	3 教師による授業の終末・単元末・学期末の計画的な学びの見届けと児童自身が目標を設定して学習に取り組むなど児童主体の授業を実践している。	○職3、1P、児3、3P、保3、1Pで全体の8割に達するほぼ期待どりの評価となった。 ○児童に力がついているかどうか授業の始めや終わり、単元終了時、学期末にミニテスト等で確認を行い、確実な基礎・基本の徹底を回った。	3.2	○教師による授業の終末・単元末・学期末の計画的な学びの見届けを授業に行っていく。 ○単元テストにおいて児童自身が目標点数を設定し、目標達成に向けた学習への取組を行うなど児童主体の学習方法になるようにする。	○ICT機器の活用も効果的に8割以上が期待どりの評価を得ていることはすばらしい。今後も期待したい。 ○宿題会も開催していただき、とてもうれしかった。 ○地域人材・地域食料・地域文化等、大いに活用し郷土愛を育ててほしい。 ○多くの方にボランティアに参加してもらい、大変うれしく思う。継続して参加してもらおう努力を。(工夫を.) ○ボランティアの数がすごい。
3 郷土愛を育むふるさと教育の推進(ふるさと教育の充実)	1 地域人材(学習支援ボランティアや読書会等)を活用した授業実践に積極的に取り組んでいる。	○職3、1P、児3、4P、保3、2Pで全体の8割に達するほぼ期待どりの評価となった。 ○地域人材活用人数は、12月10日で延べ321人であり、地域人材の積極的な活用が図れた。	3.2	○読み聞かせ、あいさつ運動、見守り隊等の日常的な学習支援ボランティアへの感謝会等を行い、支えようとする地域の方への感謝の気持ちを伝える場の設定が大切である。	○特別な人材ではなく、「できる人ができることを」で常に開かれた学校教育であってほしい。 ○感謝会も開催していただき、とてもうれしかった。 ○地域人材・地域食料・地域文化等、大いに活用し郷土愛を育ててほしい。 ○多くの方にボランティアに参加してもらい、大変うれしく思う。継続して参加してもらおう努力を。(工夫を.) ○ボランティアの数がすごい。
	2 児童の主体性を生かした地域貢献活動を実施している。	○職2、7P、児3、0P、保2、8Pでほぼ期待どりの3Pであった。 ○見守り隊や民生委員への感謝会を実施した。 ○地域の方へ向け運動会案内のポスターを作成し各公民館で掲示してもらった。 ○地域貢献活動を実施することで社会の一員としての役割を意識できるようにしていきたい。	2.8	○児童も地域社会の一員として自分たちができることを考えさせ、地域の方と助け合う機会を設定したり、地域貢献活動を実施したりすることで郷土愛を育てることがある。 ○校内だけでなく地域貢献活動としての委員会活動を検討していく。	○地域に住む者にとって活動のコミュニケーションは、先ずは、あいさつから。そして笑顔であいさつしてくれずにはいられないと意識することが多い。笑顔のあいさつは地域にもつながる。 ○地域住民としては、多いに協力をお願いします。是非、そういう触れ合いの場を作りたい。 ○あいさつや感謝会での感謝の手紙もいただいた。大変励みになり、うれしかった。 ○地域で行われている行事等を児童に積極的に知らせるべきである。その高にも、学校が地域の方と連携をとるべきである。 ○引き続き地域貢献活動の充実を。
	3 社会に開かれた教育課程を展開し、児童の郷土愛を育成している。	○職2、9P、児3、6P、保2、6Pでほぼ期待どりの評価となった。 ○教職員の社会に開かれた教育課程の趣旨理解が必要である。 ○児童は、上長飯地区は好きであるが保護者は、子どもの将来の就職先は、都域とは考えていないようである。	3	○社会に開かれた教育課程の趣旨を踏まえた教育課程の編成が必要である。 ○上長飯地区の人、もの、ことを取り入れた教育課程において、上長飯地区のよさを児童に伝えていく必要がある。 ○社会に開かれた教育課程の地域・保護者の周知が必要である。	○地域の方とのコミュニケーションは、大切だと思いたい。 ○地域の方々と触れ合う場をたくさん設け、保護者も巻き込んで地域貢献活動を活発にしたい。 ○保護者の評価が低いのが気になる。
4 教職員の資質向上(人づくり)	1 業務の効率化及び簡略化による働き方改革を推進し、教職員の業務を軽減し、児童の教育活動に専念できる環境になっている。	○職2、8P、保3、4Pでほぼ期待どりの評価となった。 ○教職員の働き方改革のために業務の効率化及び簡略化が更に必要である。 ○教職員の時間外勤務時間が45時間以内になった職員は、70%であった。	3.1	○教職員の意見を聞きながら更なる業務の効率化及び簡略化に努める。 ○教職員以外の特別支援教育支援員やスクール・カウンセラー、業務支援員や学校を支える職員と連携しながらよりよい学校運営を目指す。	○働き方改革の推進で業務の効率化及び簡略化とありますが特に新任の教職員に対する実践的指導を強化してほしい。意欲をもって教員になったのにその後の学びの環境によって教員としての力量に差が生じることも否めない。初任者の指導力向上に期待したい。 ○業務の効率化及び簡略化はもっとできるのではないかと職員の研修や提出物の、負担となる事は軽減すべきである。 ○職員と保護者がもっと密に密に、働き方改革をもっと進めるとよい。
	2 外部講師による研修など校内研修の充実を回り、職員の資質向上に努めている。	○職3、3P、保3、3Pで全体の8割を超える評価となった。 ○九野町小元教員による学級づくりを基盤としたわさびの授業実践の講話を職員研修でやった。 ○明和町下石指導教諭の教科書を活用した算数授業の教材研究と授業実践の講話を職員研修でやった。	3.3	○本年度の校内研修の振り返りを行い、成果について継続して取り組む、課題については改善し校内研修の充実を回す。 ○本年度も学校課題に応じた外部講師の招聘や校外研修を実施し教職員の資質向上に取り組む。	○教職員や専門能力スタッフの資質向上に取り組む研修は、今後も楽しみにしている。 ○学校課題に応じた研修等は必要であるが、地域の職場への体験等、教員関係から離れた経験も人間向上に必要でないだろうか。 ○引き続き研修の充実を。
	3 校内OJTの推進を回り、ミドルリーダーの育成を回っている。	○職2、8Pでほぼ期待どりの3を0、2P下回っている。 ○教務主任による初任者指導、若手の育成へ向けようが、計画の、日常的に実践されている。また、学年主任を中心とした学年団がより機能しており、学校組織としての教育体制が整っている。	2.8	○校内OJT推進のための職員研修を実施する。 ○校内OJT推進のための校務分掌を行い、校務部長や学年主任に協力し校内OJTを推進し教職員の資質向上を回す。	○職員同士の横のつながりが強い。(児童の気になるところを相談したところ、すぐに学年単位で対応してくださった。) ○学年主任を中心として学年団の機能の活用を今後も期待したい。 ○若い先生が多いのでベテランの先生から細かな指導をしてもらいたい。
	4 管理職は、日頃から教職員との対話を大切に、必要な指導、助言及び支援を行うことにより教職員が日々の業務等に対して達成感・達成感をもって取り組んでいる。	○職2、9Pでほぼ期待どりの3を0、1P下回っている。 ○日常的に教職員との対話を行っているが教職員が達成感・達成感をもって取り組むよう指導助言や支援を回すには至っていない。	2.9	○教職員に対して連絡を徹底し、組織で対応できるようにする。 ○相談等に対して、今後の流れ、支援の仕方等を具体的に指導助言し、教職員が達成感・達成感をもたせようとしている。	○業務の簡略化を求め、教職員が余裕をもって勤務できるようにすべきである。 ○風通しのよい職場づくりを。 ○校長・教頭・教務主任を中心に組織づくりがうまくいっている。

※ 自己評価コメント欄の数字は、「職」が職員の評価の平均ポイント、「児」が児童、「保」が保護者のアンケートの平均ポイントです。